

平成30年度

美咲町教育委員会事務の点検・評価に関する報告書

(平成29年度事業対象)

平成30年11月

美咲町教育委員会

目 次

I	はじめに	1
	1 点検評価の趣旨	
	2 点検評価の対象及び方法	
II	教育委員会の組織及び活動	1
	1 教育委員会の委員	
	2 審議案件	
	3 研修会等	
	4 学校訪問	
	5 会議の運営等	
III	教育委員会が管理執行する事務	3
	1 基本的・総務的事務	
	2 人的管理に属する事務	
IV	主要事業の点検評価	4
	■学びプラン	
	■つながりプラン	
	■夢育みプラン	
V	おわりに	14
○	学識経験者による意見	15

I はじめに

1 点検評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という）の一部改正により、平成20年4月から全ての教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに公表しなければならないこととなった。

本報告書は、地教行法第26条の規定に基づき点検及び評価を行い、その概括を報告するものである。

2 点検評価の対象及び方法

(1) 対象

平成29年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況

(2) 報告

本報告 平成30年12月議会にて報告

(3) 方法

「方策」は美咲町教育振興の重点施策に掲げている主な取組

「取組の概要」は方策に係る具体的な取組内容や状況を記載

「成果と課題」は実施した取組の成果と課題を記載

「評価」は達成度についての内部評価を記載

A・・・十分な成果を得た

B・・・概ね成果を得た

C・・・成果もあったが、改善が必要

D・・・満足の得られる成果が見られず、事業の見直しが必要

(4) 学識経験者からの評価

地教行法第26条第2項の規定に基づき、次の者に助言及び意見を受けた。

美作大学生活科学部 特任准教授 佐々木 勇 氏

(5) 公表

町公式HPでの閲覧

II 教育委員会の組織及び活動

1 教育委員会の委員

職名	氏名	性別	任期
教育長	柴原 靖彦	男	H28. 4. 1 ~ H31. 3. 31
教育長職務代理者	西村 昌計	男	H28. 5. 14 ~ H32. 5. 13
委員	黒瀬 堅志	男	H25. 5. 14 ~ H29. 5. 13
委員	寒竹 美穂	女	H28. 5. 14 ~ H32. 5. 13
委員	延原 幸子	女	H26. 5. 14 ~ H30. 5. 13
委員	芝原 秀法	男	H29. 5. 14 ~ H33. 5. 13

2 審議案件

開催日	主な議決・報告等事項
4月20日	平成29年度教育委員会事務局の人事・事務分掌
5月24日	美咲町教育振興基本計画（平成29年度方策）、補正予算
6月19日	議会一般質問、中学校生徒海外短期留学事業、子ども議会
7月18日	岡山県学力・学習状況調査の結果概要、就学援助認定状況
8月22日	H30 使用小学校教科用図書（道徳）採択、H28 決算事務報告
9月22日	全国学力・学習状況調査の結果、議会一般質問、補正予算
10月24日	美咲町小中学校児童生徒通学バス運行規程の改正
11月29日	H29 美咲町教育委員会事務の点検及び評価に関する報告書
12月21日	教育支援委員会判定結果、議会一般質問、補正予算
1月19日	小・中学校卒業式の挙行、成人式の報告
2月20日	H30 当初予算、小・中学校入学式の挙行報告
3月14日	H30 教育課程編成表、教職員人事、議会一般質問、補正予算

3 研修会等

開催日	研修会等
5月8日	市町村教育委員会教育長等人権教育連絡会（県総合教育センター）
6月23日	美作地区市町村教育委員会連絡協議会研修会（津山市勝北公民館）
7月11日	岡山県市町村教育委員会連絡協議会総会（くらしき健康福祉プラザ）
11月7日	岡山県市町村教育委員会連絡協議会研修会（ライフパーク倉敷）
11月14日	美作地区市町村教育委員会連絡協議会秋季研修会（鏡野町）

4 学校訪問

開催日	学校
11月20日	美咲中央小学校、中央中学校、加美小学校
11月27日	柵原西小学校、柵原東小学校、柵原中学校
11月29日	旭中学校、旭小学校

5 会議の運営等

教育委員会は、定例会を毎月1回開催した。事務局員として教育総務課長、生涯学習課長、必要に応じて指導主事を加えて開催した。会議は毎回、十分な時間を掛けて審議及び協議を行った。内容としては、教育行政の重点目標及び施策、人事、施設管理、予算決算事務、就学、教育振興基本計画、人権教育基本方針、教育課程、学校の様子、学力状況等、多くの議題が検討された。

教育委員は、県の研修会等に参加して識見の向上に努めている。また、町内小中学校を訪問し、教育活動の参観を行うことで、現状の把握をしたり、取組の成果や課題を協議したりしている。

地域の実情に応じて、住民の意向を施策に反映することについては、学校教育及び生涯学習の両面で工夫や努力が今後一層求められる。

Ⅲ 教育委員会が管理執行する事務

1 基本的・総務的事務

教育行政重点施策の策定等、基本方針の多くは、事務局が原案や資料を提出し、教育委員会として協議や審議を行っている。しかし、具体的な施策としてどのように反映させるか等、十分に審議を深められていないものもある。平成24年度から、美咲町教育振興基本計画をもとに、年度ごとに重点方策を設けて推進してきた。そして、第1次計画の成果と課題を踏まえ、平成29年度より、第2次美咲町教育振興基本計画（H29～H33）に基づいて教育行政を推進している。

規則等の制定・改定については、機会に応じて教育委員会で審議し、適切に行っている。さらに、地方教育行政の組織及び運営に関する法律改正等に伴い、必要と考えられる規則等は積極的に制定・改廃を行っている。

施設設備面においては、平成28年度は、美咲中央小学校にて、新年度入学児童数の増加に伴い、教室の増築工事を行った。町内学校施設の中には、建築後30年から40年以上も経過し、老朽化が進んでいる施設がある。今後、そのような施設の維持管理については緊急を要するものから優先的に点検し、修繕及び改修を行っていく。

また、平成28年度、柵原地域の学校について、今後の在り方を検討する「柵原地域学校建設検討委員会」を設置し、協議を行ってきた。その結果、9年間を見通した小中一貫教育を行う義務教育学校の創設が望ましいとの答申が町長に提出された。本答申を受け、平成29年度は「柵原地域義務教育学校整備検討委員会」を設置し、義務教育学校の創設に向けて協議を重ね、保護者に説明会を開いたり、議会と協議をしたりしながら進めている。

2 人的管理に属する事務

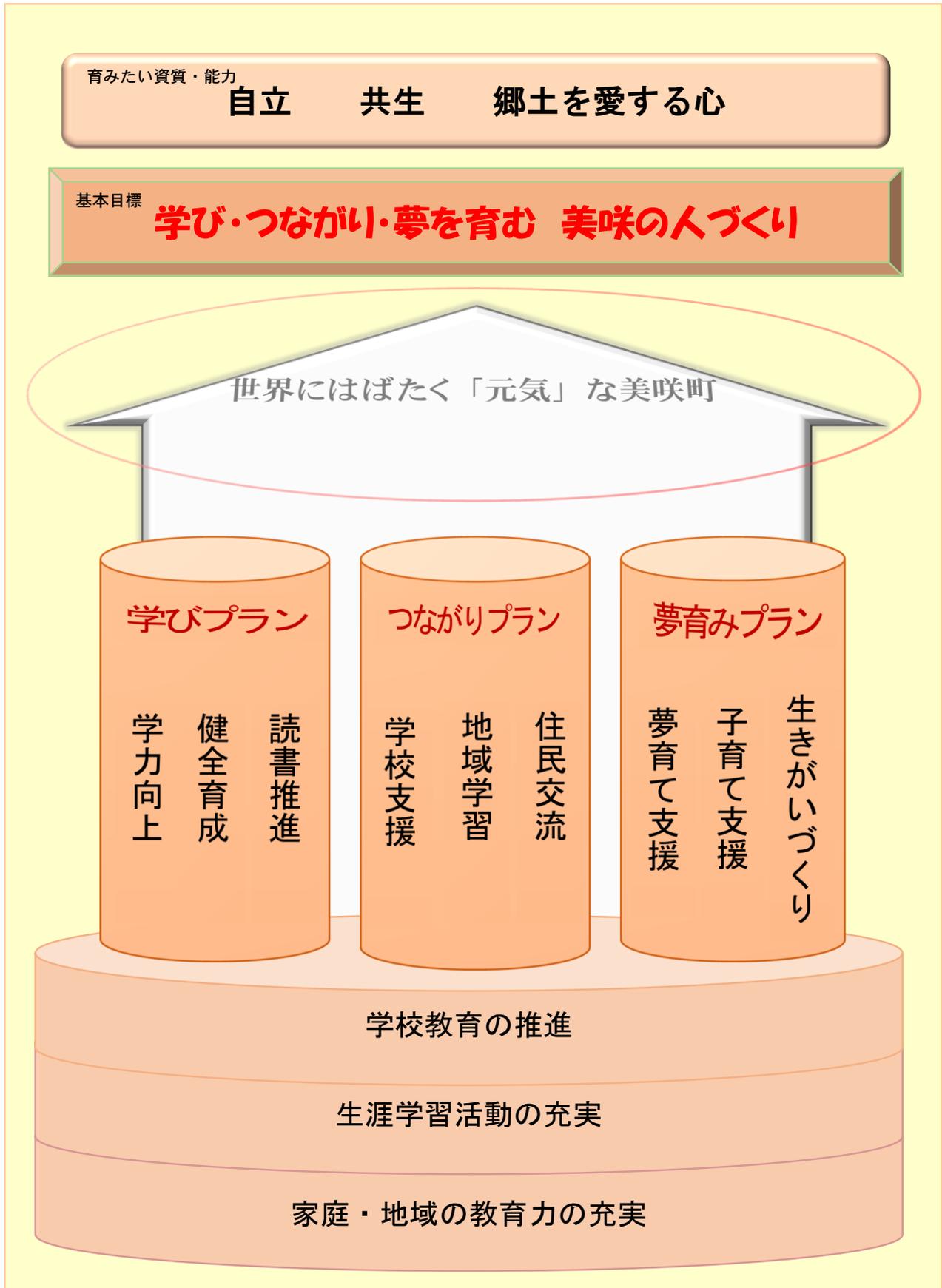
町立小・中学校教員の県費教職員の人事については、津山教育事務所と連携を図りながら、喫緊の課題である学力向上や問題行動の解決に向けた学校組織の強化を行っている。また、個々の教職員の指導力向上を図るために、校内における研修や校外における研修等、多方面にわたって研修が行われている。学校運営に関しては、各校と連携を図りながら、必要に応じて支援を行うことと、学校長に対して、必要な連絡、指導助言等を行っている。また、教職員の多忙化への対応として、教師業務アシスタントを小中各1校に配置したり、校務支援システムを全校に導入したりして、業務負担の軽減にも努めている。

特別支援教育については、教育支援委員会の判定状況から、特別な支援を要する児童・生徒の増加が見込まれ、特別支援教育を充実させるための体制づくりが必要である。県費負担教員の配置基準による教員数だけでは指導が困難な場合、学校運営を円滑に行うために町費による教育支援員の配置・負担を行っている。

また、事務局職員の研修については、県教育委員会や町長部局主催の研修に参加し、研鑽を深めている。

IV 主要事業の点検評価

■美咲町教育推進の体系



■学びプラン

1 学力向上

目標：確かな学力を身につけるとともに、豊かな心や人権感覚の育成、体力・健康づくりを図る。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
授業改善の働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ○岡山型学習指導のスタンダードに基づく授業改善。 ・授業のねらい・手立て・評価が明確で学習内容の定着度の確認がある授業。 ○基礎基本の定着 ・美咲町統一テスト（小学校）の実施 ○思考力・判断力・表現力の育成 ・学び合いや教え合いのある授業 ・書く活動の充実 ○学力及び体力調査結果の分析による課題の明確化と対策 ・学力学習状況改善プランの作成 ・体力分析シートの作成 ○美咲町学力向上推進連絡協議会の開催 ○美咲町教育研究会の活性化と全員研修会の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業5に基づいた「導入」・「展開」・「終末」の学習過程が定着してきた。今後も学習内容の確実な定着を目指した授業改善が求められる。基礎的な力が身につけていない児童生徒に対して、個別に支援する活動が必要である。 ○美咲町統一テストでは95%の達成率を目標に取り組んだが、算数（計算）では高学年になるに従って正答率が低下する傾向にある。 ○国語に比べて、算数・数学に課題が見られる。各学年での学習内容を確実に定着させることと、既習内容や前学年の内容に遡って繰り返し学習することが必要である。 ○「算数・数学の授業の内容はよくわかりますか。」 H29 全国学習状況調査結果 小6 83.0%（全国 80.6%） 中3 62.6%（全国 69.4%） ○授業の「めあて」や「まとめ」、「ふり返し」が行われているが、主体的な学びにつなげる授業の質を高めていくことが必要である。 	B
落ち着いた学校生活	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導調査を毎月行い、各校の状況把握と課題の早期対応・支援を図る。 ○学級集団の状態を客観的に把握するQ U検査の活用を通して、集団全体や個々の状況に目を向け、落ち着いた学級をつくる。 ○他の機関へつなぎ連携をとることで、情報共有や役割分担を行い、学校への支援を行う。 ○問題行動出現率（小学校、中学校） ・不登校（0.3、2.0） ・いじめ（3.0、3.0） ・暴力行為（1.0、5.0） 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月各学校から生徒指導に関する調査の報告があり、課題に応じた対応を行っている。 ○H29 問題行動等調査 小学校（県）、中学校（県） ・いじめ 6.08（15.79）、18.72（16.71） ・不登校 0.61（0.57）、1.60（2.73） ・暴力行為0.00（4.69）、37.43（10.20） いじめは1000人当たりの認知件数、暴力行為は1000人当たりの発生件数、不登校は出現率（%） ○中学校で落ち着かない生徒がいたために暴力行為が増加した。 	B
家庭学習の習慣形成	<ul style="list-style-type: none"> ○継続的に家庭学習の支援を行う。 ・家庭学習のスタンダードを活用した家庭学習の習慣づくり ・自主学習の励行 	<ul style="list-style-type: none"> ○平日の家庭学習1時間以上 H29 全国学習状況調査結果 小6 68.0%（全国 64.4%） 中3 58.2%（全国 69.6%） 	B

	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査期間中の生活ふり返り ・土曜日の教育支援事業、 <p>○平日の家庭学習 1 時間以上が小6で70.1% (全国 62.5%) 中3で61.5% (全国 67.9%) であり、更に家庭学習に取り組む習慣の定着を図る。</p>	○小学校においては全国よりも家庭学習の時間が上回っているが、中学校においては全国よりも低い結果で、取組の改善が必要である。	
成果と課題	<p>○落ち着いた学校運営がなされ、教育活動が推進されてきているが、学力調査の結果は全国平均に及ばない状況である。しかし、緩やかに、全国平均に近づきつつある。基礎・基本の力は身に付きつつあるが、活用力が低い傾向にあり、読解力や思考力・判断力・表現力を身に付けていくことが今後の課題である。</p> <p>○長期欠席児童生徒が増加傾向にあり、新たな不登校を生まない取組として、個々の児童生徒理解に努め、居場所のある温かい学級集団づくりや家庭との連携を密にした教育活動を行う必要がある。また、QU検査結果等を活用して、児童生徒の心理状況を把握し、気になる児童生徒には具体的な手立てを打つことや、きざしや兆候が見られた際には、早期対応を行う必要がある。</p>		B

2 健全育成

目標：子どもたちの健全育成のため家庭教育の支援を充実させる。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
あいさつ運動の推進	<p>○各校のあいさつ運動に年間 3 回参加し、取組の支援をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒会が主体となったあいさつ運動の実施。 ・学校・家庭・地域が連携したあいさつ運動の実施。 	<p>○学期毎に年間 3 回実施している。</p> <p>○児童生徒会が主体となったあいさつ運動により、元気のよいあいさつをする児童生徒が増えた。</p> <p>○保護者や地域の方もあいさつ運動に参加していただき、あいさつ運動への取組の関心が高まっている。</p>	B
基本的な生活習慣の向上	<p>○学校や園を通して、ぱっちりモグモグ運動に取り組む。</p> <p>○子ども、保護者と連携し、平日の携帯・スマホの夜 9 時以降の利用制限やアウトメディアの 2 割改善に取り組む。</p> <p>○学校、園を通して、「ぱっちりモグモグ運動」に取り組む。</p>	<p>○生活リズム向上の指導は全小中学校において行ってきた。「早ね・早起き・朝ご飯」等、基本的な生活習慣の充実に取り組んだ。</p> <p>○生活リズム向上の取組は全校園で実施した。</p> <p>○親育ち応援学習プログラムを活用した保護者支援活動を実施した。今後も拡大していく。</p>	B
スマホ等の対策の推進	○PTA と連携し携帯・スマホ対策やアウトメディア運動に取り組む。	<p>○PTA と連携した取組や学校でのスマホ安全教室等を実施した。</p> <p>○定期考査期間中等にメディア（スマホ、テレビ、ゲーム等）にかかわる時間のチェック等、家庭と連携した取組を行った。</p>	B
人権教育の推進	<p>○町民対象人権啓発活動</p> <p>○児童生徒に人権標語・人権ポスターを</p>	<p>○県・町・小中学校・人権教育推進協議会主催による講演会・研修会の開催により、広く啓発を行った。</p> <p>○町内小中学校から募集した、人権標</p>	B

	<p>募集し、各校で取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット・クリアファイルの作成 <p>○人権教育推進協議会委員の研修</p> <p>○町職員の人権研修会</p>	<p>語・人権ポスターにより、リーフレットを作成し、町内全戸配布した。また小中学生には、クリアファイルを配布し啓発を図った。</p> <p>○当事者である講師を招聘し、LGBT（性的マイノリティ）について研修会を実施し、推進協議会委員25名が参加した。今日的な課題であるLGBTについて認識を図った。</p> <p>○町職員を対象に「障害者の人権」をテーマに障害者差別解消法についての研修会を実施した。法律の概要や障害についての理解を深め、適切な対応等を学び、知識・実践力の向上を図った。</p>	
成果と課題	<p>○子どもたちの生活リズム向上は、家庭の持つ役割が重要であり、保護者や家族の協力が不可欠となり継続した取組が必要である。</p> <p>○小中学生の応募によるポスター、標語によるチラシやクリアファイルの作成は定着している。広報への折込みによって、学校の取組を地域に対してしっかりPRしていくことが必要である。また、今後は人権啓発活動の一環として、LGBT（性的マイノリティ）等に対して正しい認識を持つとともに、偏見や差別意識を助長しないような環境づくりを模索していく必要がある。</p>		B

3 読書推進

目標：町民の読書活動の促進と子どもたちの読書に親しむ習慣を身につける。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
就学前児童の読書推進	<ul style="list-style-type: none"> ○3か月検診時にブックスタート、3歳6か月検診時にブックスタートセカンドとして絵本を配布 ○家庭での読書時間30分以上の割合を1割増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ○乳幼児検診時（対象者78名）、3歳6か月検診時（対象者88名）に本の配布と、図書館司書・読書ボランティアの方による読み聞かせによる読書推進の啓発や絵本の紹介。 	A
読書に親しむ環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の読書活動支援を行う。 ○朝昼時間の読書、本の紹介を継続実施 ○図書館司書が定期的に学校訪問し環境を整える。 ○ニーズに基づいたボランティアの活用と支援活動の一層の充実を図る。司書・ボランティアによる絵本の読み聞かせ活動で内容を広げ、深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館司書の週1回の図書室在室により、図書室が利用しやすくなった。また、ボランティアの方による読み聞かせや朝読書が行われている。 ○学校や子どものニーズに合わせた図書の整備が必要。 ○みさきっず（図書学校受け渡しサービス）の利用促進。 ○平日の読書時間30分以上 <p>H29 全国学習状況調査結果</p> <p>小6 38.7% (全国 36.5%)</p> <p>中3 27.0% (全国 29.2%)</p>	B
読書に関する	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館での一層の取組を推進する。 ○活用率向上に向けた研修、館内レリア 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報誌図書館だよりの充実に向けた内容変更。 	B

<p>る人材育成・研修</p>	<p>ウトを始め実務的指導を受ける。 ○県立図書館等の各種研修会参加や近隣図書館との交流を図る。</p>	<p>○合同研修、講演等は未実施ながら、司書の研修への参加は増加している。 ○イベントの実施 中央図書館 25回 187人 旭図書館 21回 435人 柵原図書館 49回 482人</p>	
<p>成果と課題</p>	<p>○生活リズムの向上は、学校とPTAとの連携等により定着しつつある。また、スマホを含むアウトメディアについては、家庭での粘り強い取組が必要であり、環境づくりを行うことによって生活リズムの一層の向上に努めることが重要である。 ○読書推進は学校と各図書館の連携が進んでいるが、図書館利用のきっかけ作りは、PRも含めてイベント等で情報発信にも積極的に取組を行う必要がある。</p>		<p>B</p>

■つながりプラン

4 学校支援

目標：学校、家庭、地域のつながりを広げる。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
<p>おかやま子ども応援事業の効果的な推進</p>	<p>○地域学校協働活動事業 ○放課後子ども教室事業 ○土曜日教育支援事業 ○上記事業の統合実行委員会の開催及びスタッフ研修会の開催</p>	<p>○活動日数/年 ボランティア延べ人数/年 加美小学校 342日 延3,495人 美咲中央小学校 289日 // 1,300人 旭小学校 94日 // 314人 柵原西小学校 156日 // 300人 柵原東小学校 278日 // 355人 中央中学校 433日 // 787 旭中学校 68日 // 102人 ○活動日数/年 平均参加児童数/回 寺子屋ちゅうおう 90日 平均 5人 キッズトライアングル 58日 // 32人 寺子屋あさひ 91日 // 12人 柵原元気っ子教室 70日 // 20人 寺子屋やなはらにし 75日 // 30人 寺子屋やなはらひがし 45日 // 8人 ○開催回数/年 平均参加児童数/回 のびのびサタデー 12回 平均 20人 ホリデーわくわく 19回 平均 38人 ○参加人数 第1回実行委員会(7/24) 15人 第2回実行委員会(2/19) 20人 スタッフスキルアップ 研修会(//) 15人</p>	<p>A</p>

	○家庭教育支援チームの結成及び支援者養成講座の開催	○支援チーム定例会 年8回開催 ○ホーター養成講座(11/6) 8人受講	
成果と課題	○各事業ともスタッフが減少傾向にあり、利用者から支援者への支援の循環が課題となっている。また、放課後子ども教室では、保護者が一時預かり的な目的で利用するケースが見られ始め、事業運営への影響が懸念される。		A

5 地域学習

目標：地域での子どもから大人までの交流の機会を広げる。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
地域に愛着をもった子どもの育成	○中高生が活躍おかやま創生を支える人づくり推進事業（県委託事業）の実施	○町内中学生が境神社応援隊を結成し、町の伝統文化「獅子舞・宮棒」に挑戦した。 中央中3人 旭中3人 柵原中3人 説明会1日、稽古6日、秋大祭1日、事業評価1日 岡山大学生や地域と交流を深め、地域課題について話し合いを行った。また、地域の伝統行事を通して郷土愛を育み、地域を誇りに思う人材を育成する。 ○「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」 H29 全国学習状況調査結果 小6 88.7% (全国 62.6%) 中3 57.4% (全国 42.1%)	A
地域の教材・人材の活用	○土曜日教育支援事業の活用 ○スポーツ推進委員会 旭・柵原支部主催のウォーキング大会の開催	○のびのびサタデー（旭地区）ボランティア年間延べ人数 109人 地域の人材、各種団体を活用し、体験学習を中心としたプログラムを実施した。 キャンプ、稲作、川遊び、消防・防災、科学実験、天文観察、料理、スキー、凧、餅つき、影絵、等々 ○ホリデーわくわく（柵原東小学区）ボランティア年間延べ人数 88人 地域の人材、各種団体を活用し、体験学習を中心としたプログラムを実施した。 伝統工芸・伝統（百々人形等）、寺修行、親子料理、キャンプ、等々 ○例年開催される地域イベントで、子どもから大人まで幅広い参加があり、地域の方との交流を深める場となっている。	A
文化財の活	○広報誌等により文化財の紹介や説明を行う。	○文化財保護委員会、文化財研究会とも定期的に会議を開催し、指定文化	B

用や充実	<p>○町内の観光名所に文化財マップを配布し、美咲町に所在する文化財を広めていく。</p> <p>○老朽化していた本山寺常行堂の保存修理事業を行うことにより、貴重な文化遺産を後世に伝えることにつながっている。</p>	<p>財の保護・保存に尽力している。</p> <p>○説明ボランティアの後継者養成は今後も粘り強く続けていく。岸田吟香記念館、月の輪古墳への来場者は根強いファンが多い。</p> <p>○文化財マップを町内の要所に設置し、広く町内外の方へのPRを行った。</p> <p>○本山寺常行堂屋根の茅葺き替えの様子を公開するなどめったに見られない保存修理事業をきっかけに、文化財ファンが地元を訪れ町内外の交流につながっている。</p>	
成果と課題	<p>○おokayama子ども応援事業等への取組により、小中学生に対する体験活動や伝統文化・芸能等の伝承について、地域のボランティアによる協力を得て学習プログラムとして一定の成果が見られた。地域の交流・活性化には若い世代の積極的な参加がこれからも必要であり、地域行事に企画立案の段階から中高生が参加できる仕組みづくりを模索する必要がある。</p>	A	

6 住民交流

目標：文化・スポーツ活動を振興し、地域住民の交流を深める。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
地域行事やスポーツ活動の活性化	<p>○生涯学習の一つと考え、講座等を企画する中で、若者と高齢者が交流できる場として地区文化祭への出展、グラウンドゴルフ交流等、日頃の学習の成果の発表ができる場を設ける。</p>	<p>○中学生が、ボランティアと一緒に町花である菊作りを行い、成果の発表として菊花展に出品している。</p> <p>○各地域の文化祭は例年どおりに開催され、地元地域の保育園・学校からも数多くの出品が見られた。カラオケ大会や芸能発表会も複数回開催され盛況だった。</p> <p>○文化連合会（各地区文化協会）への入会者の勧誘が必要。</p> <p>○グラウンドゴルフ場周辺の環境整備等。</p> <p>○「地域の大人と勉強やスポーツを一緒にすることがありますか。」</p> <p>H29 全国学習状況調査結果 小6 39.6% (全国 41.1%) 中3 30.4% (全国 23.6%)</p>	B
成果と課題	<p>○各地域で開催される文化祭等には、小中学生等の積極的な出展が見られ、地元との交流につながっていることがわかる。また、菊作りは体験学習の要素を持ちながら、高齢者から技術を学びながらの交流など、一つの教室を通じて多くの大事なことを学んでおり、取り組み方を工夫することで今後の全庁的な事業としての展開が期待できる。</p>		B

■夢育みプラン

7 夢育て支援

目標：子どもたちの夢を育み、目標を持った生活ができるようにする。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
目標をもった教育活動	○目標を意識した生活習慣を身に付けさせる。	○週目標を意識した生活ができており、帰りの会で振り返りを行うなど、自己評価させる活動を行っている。 ○指導者がどのように目標をもたせるかが大切であり、学校全体で共通認識を持って指導に当たることが必要である。 ○各授業や学校行事での活動で、めあてや目標に対する児童生徒の振り返り活動は進んできているが、気づきや学びを今後の生活につなげる働きかけが必要である。	B
キャリア教育の充実	○将来の夢をもち、勤労を重んじ目標に向かって努力する態度を育成するために、全体指導計画や年間指導計画を作成する。 ○小学校・・・教育課程に位置づけ、担当を置き、計画的に実施する。 中学校・・・1年時に職業調べ、2年時に職場体験学習、3年時に進路についての学習を実施し、段階的に自分の進路についての意識を高める。 ○職場体験学習では、働く厳しさと充実感を獲得し、今後の自己の課題がつかめるようにする。 ○「将来の夢や目標を持っている」子どもの育成。	○全小学校にキャリア教育の担当者を設け、全体指導計画をもとに推進した。 ○職場体験学習は4日間実施し、成果発表会を行った。 ○中3生は卒業時にビデオ収録を行った。 ○「将来の夢や目標をもっているか。」 H29 全国学習状況調査結果 小6 88.7% (全国 85.9%) 中3 69.6% (全国 70.5%) 小学校では全国平均を上回っているが、中学校では全国平均を下回っている。	B
将来の夢を育む活動	○現在活躍している人物や郷土の偉人の話を聞く機会を通して、将来の夢を育てていく。 ○美咲町中学生生徒海外短期派遣留学事業の実施。	○全校朝の会や授業等で、地域の方やゲストティーチャーの講話を聴いたり、総合学習において専門家の指導を受けたりして、将来の夢を育むための取組を行った。 ○7/28～8/9(13日間)、ニュージーランドに中学生11名の短期派遣留学を行い、異文化や英語に触れる体験を実施した。9/21に報告会の実施。	B
成果と課題	○子どもたちの夢を育むために、多様な他者とのかかわりや様々な体験活動等を通して、コミュニケーション能力を育んだり、地域や社会に目を向けるように視野を広げたり、好奇心や生活意欲を高めたりすることが必要である。 ○生涯にわたって夢に向かって努力し続けようとする意志力を育てていくことが大切である。 ○指導者側が、あらゆる場面で夢を意識させる指導を行うことが必要である。		B

8 子育て支援

目標：夢の広がる子育てを支援する。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
適正な就学や支援	○家庭教育支援チーム、学校職員等の親育ち応援プログラムによる保護者のつながりづくりの支援	○実施状況 7/11 美咲町PTA連合会 20人 「広げようコミュニケーション」 7/27 柵原中学校区保小中PTA 120人 「ふりかえろう 私の子育て」 10/26 柵原地域就学時健診 37人 「早ね早おき朝ごはん、 元気アップ大作戦！」 2/ 6 加美小学校入学説明会 2/15 旭小学校入学説明会 15人 2/ 6 美咲中央小学校入学説明会 「自分でできたよ！うれしいな ～入学までに応援できること～」	B
安全安心の子育て環境	○青少年相談員による学校訪問や、通学時のあいさつ運動、交通当番など日常の安全な環境づくりに取り組んでいる。	○組織的活動とは違い、個々の相談員としての取組で、限られた範囲での活動となっている。 相談員の存在がもっと身近なものであることを広報等でPRすることも必要。	B
子どもの体験活動	○青少年健全育成事業による地場産業に学ぼう ○夏休みキッズスクール ○イングリッシュキャンプ	○林業体験 体験活動 8/11 小学生8人、中学生3人、一般9人 ・ 桧・杉・松の苗畑見学と植林地散策 ・ 製材所・炭焼き小屋の見学 ・ 木工体験 ・ 学習のまとめ 地域活動（高齢者学級で発表と交流） 8/17 小学生8人、中学生1人、一般5人 高齢者学級、42人 ・ 体験発表 ・ 地域交流 ○実施状況 中央地区 2回 柵原地区 2回 4事業 延べ参加者96人 料理教室、天体望遠鏡づくり、写生 ○南和気荘を会場に一泊二日で英語体験学習を開催 参加者25人	A
成果と課題	○家庭教育支援を重点施策として取り組む準備段階として、事業に携わる人材の育成を中心に研修を重ね、支援のためのチーム立ち上げに力を入れた。翌年度の事業展開に向け、チームや事業のPRなど関係者で話し合った。 ○体験活動等は、次回の実施につながるよう実施内容について事後のとりまとめが必要である。		B

9 生きがいづくり

目標：明るく生きがいを持って生活できる環境をつくる。

方策	取組の概要	成果と課題	評価
<p>魅力ある生涯学習講座</p>	<p>○女性と高齢者対象の講座 <中央> ちゅうおう亀壽大学・マナースクール 各12回 <旭> 旭しあわせ学級・旭きらめき学級 各12回 <柵原> かしの実大学・ふれあい学級 各10回</p> <p>○一般対象の講座 ・英会話教室（全10回） 美咲町ALTの派遣 参加者数：19名</p>	<p>○生きがい、教養、趣味活動の講座や、健康の増進、時代に適応した社会感覚や知識を深めることを目的に各地域でそれぞれ趣向を凝らした講座を開催した。</p> <p>・高齢者対象 中央：37回講座・68名 旭：16回講座・55名 柵原：10回講座・70名</p> <p>・女性対象 中央：15回講座・28名 旭：17回講座・25名 柵原：10回講座・69名</p> <p>○ちゅうおう亀壽大学では、各講座の成果を展示し、1年間の成果発表を行い、翌年度以降の励みとなった。</p> <p>○英会話教室は初めての試みであり、社会人の参加が得られ好評であったことから、翌年度への継続を行うことになった。</p>	<p>A</p>
<p>文化的事業の充実</p>	<p>○「さくらのうた」事業の充実発展 ・10月からの募集開始に向けて、募集方法を更に工夫。 作品集発行。表彰式、展示会の開催。</p> <p>○文化・芸術活動の充実発展 ・各地域で行われている文化祭や文化展等作品を気軽に発表できる場を作る。 ・生きがいを持って活動できるよう社会教育団体の育成を図る。</p>	<p>○町内外の小中学校、町内社会福祉施設等を訪問し依頼した。また、町HP、新聞等に掲載することにより、県内外やワシントン日本語学校からの応募もあり、昨年に引き続き1,712点もの多数の応募作品が寄せられた。</p> <p>○郷土資料館や図書館、公民館等の公の施設を利用して文芸・文化等の発表の場を作ることができた。また、天文台などの文化学習施設の利用者は、ほぼ例年並みで推移しており、今後も利用者の定着を図るきっかけ作りについて年間を通じて行うことが重要である。</p> <p>○中学生が、ボランティアと一緒に町花である菊づくりを行い、成果の発表として菊花展に参加した。</p> <p>○各地域の文化祭は例年どおりに開催された。カラオケ大会や芸能発表会も複数回開催され盛況だった。</p> <p>○文化連合会（各地区文化協会）への入会者の勧誘が必要。</p>	<p>A</p>

生涯スポーツの環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○各種団体と協力し、スポーツ体験等のイベントを行いスポーツに親しむ場を作る。 ○町民運動会、美咲チャレンジロードレース大会といった全町で行われるイベントを積極的に支援する。 ○スポーツクラブの活動が充実するよう、行政は継続して支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者は固定しつつあり、内容の検討や告知放送、CATV、広報誌等の呼びかけなど、新規参加者の促進が必要である。 ○ワンバウンドふらばーボールバレーやカローリングなどのニュースポーツの継続と促進。 ○グラウンドゴルフ場周辺の環境整備 ○実行委員会主導による町民運動会やロードレース大会が定着している。「晴れの国岡山」駅伝競走大会への連続出場。 ○総合型地域スポーツクラブとの協働や自立へ向けた取り組み。 ○少子化の影響や各種スポーツクラブに参加する子供が増えている。スポーツ少年団（8団体）の入団者が減少傾向にあり、活動の改善・充実が必要である。 	A
成果と課題	<p>○魅力ある生涯学習講座の在り方について、定着している高齢者及び女性向けの講座はそれぞれが主体的に取り組むことにより、一定の成果がみられる。今後は今まで参加していなかった方への取組を考える必要があり、現在の受講生を含め多くの方の意見に耳を傾けながら、新たな方向性を見出す必要がある。</p>		A

V おわりに

このたび、「教育委員会事務の点検・評価」として地方教育行政の組織及び運営に関する法律改正の背景や趣旨に則り、本町教育委員会の業務の点検及び評価を実施した。本町教育の概要を示す「第2次美咲町教育振興基本計画（平成29年度から平成33年度）」及び「教育要覧」に基づき、各分野の事業活動を評価したものである。

教育行政の業務においては、この点検評価書に記載されていない業務も多数あることは否めない。しかし、本町の教育振興の骨子となるのは、前出の当計画である。本計画における3つのプランの重点施策に沿って、各担当を中心に事業の内部評価を行ったが、十分な評価ができていない面があり、課題も多く見られる。今後、より多面的な視点からの評価や工夫改善が必要である。

今後は、これまで創り上げてきた本町教育の基盤をもとに、よりよい発展・向上を目指して、成果の見られた部分は継続して維持を図り、課題については検討を行い、取組の工夫を講じることで、改善していくことが必要である。

さらに、結果については、分かりやすい説明や公表を行い、町民の理解や信頼感を築いていくことも必要である。その上で、住民の声や要望も取り入れつつ方策を見直すことで、本町教育行政が『学び・つながり・夢を育む 美咲の人づくり』に向かって、よりよい発展を遂げていくように努めていきたい。